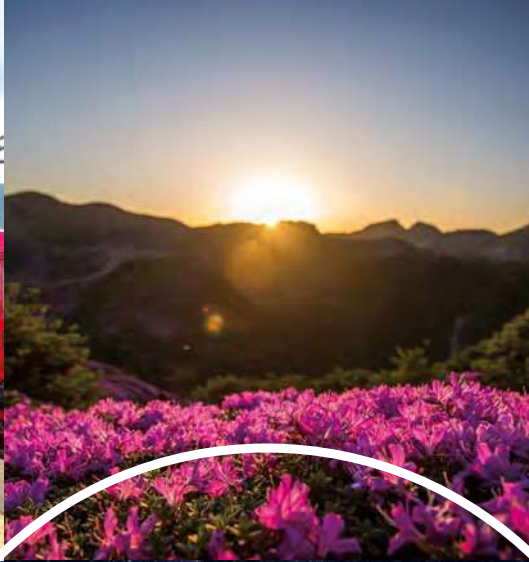




九重町は

大分県の南西部に位置しており、標高1,700m級のくじゅう連山に囲まれ、筑後川の上流玖珠川が流れる、面積271.37km²の広大な町です。

また、町土の約半分が阿蘇くじゅう国立公園・耶馬日田英彦山国定公園に指定され、貴重な自然が数多く残っています。人口一万人を下回る町ですが、地熱などの豊富な資源や美しい景観を有する観光と農業の町です。



／ 九重町の町花 ／

ミヤマキリシマ

九重の山々に多く自生し、赤紫色から白色まで色調に変化があり、九重を訪れた人々の心を魅了しています。



#3260



九重町の 2つの 日本一

歩道専用吊橋
高さ日本一！

天空の散歩道 九重“夢”大吊橋

九重“夢”大吊橋は、2006年にオープンした長さ390m、高さ173m、幅1.5mの歩道専用としては「日本一の高さ」を誇る吊橋です。目前に、「日本の滝百選」にも選ばれた、「震動の滝・雄滝」や「雌滝」を望み、足下に筑後川の源流域を流れる鳴子川渓谷の原生林が広がり、四季折々に織りなす大自然の変化は訪れる人々を魅了する県内でも有数の観光名所です。



発電量日本一！

地熱発電

地熱発電とは、地中深くから取り出した蒸気で直接タービンを回して発電するものです。火力発電所では、石炭、石油、液化天然ガスなどの燃焼による熱で蒸気を発生させるのに対し、地熱発電では地球がボイラーの役目を果たしているといえます。九重町は、多数の地熱発電所を有しており、その発電量は約165,000kWと日本一であり、日本全体の地熱発電量の約3割を担っています。また、再生可能エネルギーの電力自給率においても2,452.1%と日本一となっており、地熱を含め豊富な資源を有しています。

(出典：永続地帯2022年度版報告書)

九重町の
ご当地キャラクター



ミヤちゃんは九重町の花「ミヤマキリシマ」の妖精です。世界的人気キャラクターの「ピカチュウ」をデザインしたキャラクターデザイナーのにしだあつこさんが九重町を訪れた際ミヤマキリシマの美しさに感動し、「町の発展のためにぜひ使ってほしい」とプレゼントしてくれました。ミヤちゃんは町内外の各種イベントで見ることができるほかぬいぐるみやクリアファイルなどのグッズ販売もされています。



3 2 6 0

九重町町勢要覧2024

3

ミライへつなぐ、みんなでつむぐ。

kokonoe

01

協働・人権・
行財政運営

こころを繋ぎ、
みんなでつくる
まちづくり



協働のまちづくりの推進

人口減少が進むなか、地域のコミュニティを維持するために、自らがまちをつくる「自主性」や「自立性」住民同士の助け合い等「協働」の醸成を図り、民間団体が参画する地区協議会を核として、地域課題の解決に向けた取り組みを推進しています。また、町政に住民の声を活かすため、現在の広報手段に加え、ICTを活用した情報発信に努めています。



男女共同参画社会の実現

性別による固定的な役割分担意識にとらわれることなく、家庭や地域社会等様々な場面で活躍することができる社会の実現をめざしています。そのためには、男女が対等な立場で参画できるまちづくりを推進し、子育てや家庭と仕事との両立の支援を行っています。また、あらゆる暴力やハラスメントを許さない社会をめざすために、学習機会の提供や相談支援に取り組んでいます。

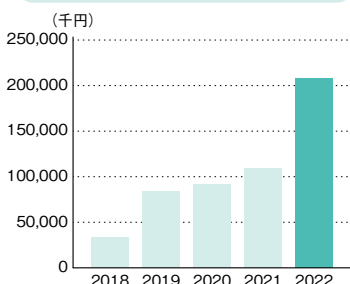
人権尊重社会の実現

教育・福祉・人権擁護機関等と連携し、相談体制の充実を図りつつ、誰もが参加しやすい住民参加型の人権研修の機会を提供しています。また、一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、差別のない社会の実現に向け、関係団体のネットワーク強化を行っています。

持続可能な行財政経営の推進

事業の重要度や緊急度、難易度を考慮し、優先順位をつけて事業実施するために行政評価を行い、効率化を図りつつ民間活力の活用等を行うことで簡素で効率的な組織機構を目指しています。また、町税の徴収率の向上、ふるさと納税等の取り組みにより自主財源の確保を図っています。

● ふるさと納税寄付額



“ココ”がすごいこのえ！

地域ふれあい食堂

九重町では、他市町村の「子ども食堂」を「地域ふれあい食堂」として、子どもの支援のためだけでなく地域のふれあいの場としての食堂を運営しています。九重町は、旧町村区に4つの公民館があり、その地域それぞれ特徴のある4つの地域ふれあい食堂があります。



ミライへつなぐ、みんなでつむぐ。

kokonoe

02

(産業振興)
農林畜産業

(農林畜産業の振興)

いきいき働けるまちづくり

地域の資源を活かし、





農業生産基盤の保全管理

活力ある農林畜産業実現のため、農地の有効利用や農業経営の効率化を図り、認定農業者や集落営農組織等、農業の担い手への農地集積を促進しています。また、中山間地域等の条件不利地域の多面的機能を維持するため、耕作放棄地の発生防止に努めています。



担い手の確保・育成

新規就農者・農業後継者及びUターン就農希望者への就農支援体制を整備するとともに、ファーマーズスクール等を活用しながら就農者への指導・研修等を行い、農業経営に高い意欲を持つ担い手の育成を図っています。また、就農相談会等へ参加し、移住者等も含めた新たな担い手の確保に努めています。

地域ブランド化の推進

農産物においては、トマト・白ネギをはじめとした高収益作物の作付面積の拡大・品質の向上に努め、ブランド化を推進することで、付加価値を高めることにより、生産性及び所得の向上を図っています。



林業・畜産業の振興

林業においては、木材生産機能はもとより、水源涵養や土砂災害防止等の森林の有する多面的機能を発揮できるよう、森林の整備に取り組んでいます。また、畜産業においては、飼育頭数の維持を図るとともに自給飼料の増産を促進し、生産コストの低減に努めています。また、畜産物においては、優良家畜の保留や導入を支援するとともに、販路開拓及び消費拡大に取り組んでいます。

“ココ”がすごいこのえ！

九重町の特徴的な農畜産物

- お米 2022年産米の食味ランキングで「ひとめぼれ」が2年連続(通算7回目)の「特A」を獲得しています。
- トマト・白ネギ 県内の主要産地で、トマトは2番目の生産量です。
- 乾・原木しいたけ 県下トップクラスの生産量です。
- 畜産物 「おおいた和牛」「九重夢ポーク」の名前でブランドになっています。

ミライへつなぐ、みんなでつむぐ。

kokonoe

03

(産業振興)
商工業・観光

(商工業・観光の振興)

地域の資源を活かし、
いきいき働けるまちづくり



商工業の振興

町内で「ひと・モノ・お金」が循環する仕組みをつくるため、商工会等の関係機関と連携し、事業者を対象にした各種セミナーの開催や経営支援等を行い、個々の事業者の経営体質の強化と経済活動の活性化に取り組んでいます。また、大分県事業承継・引継ぎ支援センターと連携し、後継者不足に悩む事業者への相談体制の構築をめざしています。

新たな雇用を生み出すため、地域資源を活用した起業や地場産業製品の付加価値を高める支援を行うとともに、町内全域に整備された高速インターネット網を活かした企業誘致を推進しています。



観光の振興

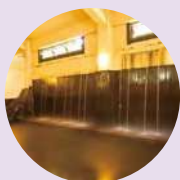
観光地の差別化による魅力向上を図るために、あらゆる観光資源を活かしたストーリー性のある着地型観光商品の開発や地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」「参加型・体験型」の視点に立った観光地域づくりをめざしています。

また、「九重“夢”大吊橋」をはじめ、自然や温泉等の観光資源に関する情報発信を行い、アウトドアやスポーツツーリズム、インバウンド観光等ニーズに合った誘客に努めています。

“ココ”がすごいこのえ！

九重“夢”温泉郷

大分県は「おんせん県おおいた」と言われるほど温泉が有名ですが、九重町も温泉が有名で、温泉湧出量は県内2位で大分県総湧出量の3割以上を占めています。また、町内各地に様々な泉質の温泉が点在しており、12の温泉地帯を総称して「九重“夢”温泉郷」と言い、多くの観光客を楽しませています。豊富な地熱資源は、温泉だけでなく、農業や発電、暖房、調理等様々な場面で九重町民に密接にかかわっています。



ミライへつなぐ、みんなでつむぐ。

kokonoe

04

自然・
生活環境

自然とともに
心地よく暮らせる
まちづくり

“ココ”がすごいこのえ！

タデ原湿原

タデ原湿原は、阿蘇くじゅう国立公園内にある湿原で、中間湿原の代表例とされています。標高1,000mの位置にあり、中間湿原としては国内最大級の面積を誇り、2005年に坊ヶツルと共に、水鳥を食物連鎖の頂点とする湿地の生態系を守るための国際条約であるラムサール条約に大分県内では唯一登録をされています（2023年時点）。マスガヤ、ミズゴケなど貴重な湿原植物が群生しており、野焼きにより湿原の維持が継続されています。





循環型社会・再生可能エネルギー・ 環境保全の推進

再生可能エネルギー等の推進や有効活用について検討するとともに、各家庭や事業所、公共施設等での省エネルギー化を推進し、住民一人ひとりが環境問題に対する行動ができるよう意識啓発に努めます。また、生物多様性の概念に基づき関係機関との連携により、「野焼き」の実施や生物多様性について住民への啓発を行っていきます。



住環境・道路・交通網の整備

住民にとって快適に暮らし続けられる環境を構築するために特に入居者ニーズの多様化に対応した町営住宅の改修等を行っています。また、増加する空き家については、空き家・土地バンク制度により移住者住宅として活用を図ると共に、受け入れ意識の醸成を図るため移住者と地域の交流を行っていきます。交通・移動手段については、運転免許証を自主返納した人たちが安心して生活できるよう多様なサービスを検討しています。



デジタル社会への対応

行政手続等のオンライン化を図り、住民の生活をより快適にする「自治体DX」を進めるとともに、デジタル化のメリットを得られるようマイナンバーカードの取得率向上の取り組みを行っています。また、社会全体のデジタル化が急速に進む中、誰もが、いつでもどこでも容易に情報取得や交流ができるよう環境整備を進めるとともに、メディアリテラシーの向上を含めたICT研修会等を開催し、デジタル格差の解消を図ります。

ミライへつなぐ、みんなでつむぐ。

kokonoe

05

防災・防犯

安全・安心な 暮らしを守る まちづくり

“ココ”がすごいこのえ！

防災見守りマップ

防災見守りマップは、町内の行政区毎に作成を進めており、災害時の危険箇所や避難ルートの確認のために作成しています。災害時や緊急時において重要なことは、普段からの見守りや声かけという観点から、独居老人の住居の確認等平常時の地域課題をみんなで確認しながら、作成していくようにしています。また、単独で避難するのではなく「誰も取り残されない」よう数世帯ごとのグループで避難する計画にすることで、避難行動をより実行性のあるものになっています。





防災・減災の推進

頻発する自然災害に対して、インフラ施設等については、地域防災や国土強靱化の視点にたって、計画的な整備を行っています。加えて、避難場所の確保と運営、災害情報伝達、住民一人ひとりの防災意識の向上による地域防災力の強化等ソフト面の充実を図り、総合的な防災・減災対策を進めています。また、消防団や防災士等との連携を図り、行政区等の単位での防災見守りマップづくりや避難訓練等を通して、日頃からの災害に対する備えや災害発生時に自発的な避難行動が行える地域づくりを推進しています。



安全な暮らしの推進

住民の生命・財産を守るため、消防車両や防火水槽・消火栓等の消防施設を計画的に更新し、消防力の充実を図るとともに、消防団員の加入を促進し、組織の強化に努めています。防犯活動については、警察や防犯協会等と連携を図りながら、地域安全運動を展開し、住民との協働による犯罪の抑止活動を推進し、犯罪のないまちをめざしています。特に、高齢者を狙った振り込め詐欺等の特殊詐欺が全国的な問題となっていることから、犯罪の防止に向け取り組んでいます。

ミライへつなぐ、みんなでつむぐ。

kokonoe

06

健康・福祉

助け合い、

みんなで支える

まちづくり





健康づくりの推進

すべての住民が生涯にわたり健康を維持できるよう、ライフステージにあった切れ目のない健康づくりを支援しています。健康相談や保健指導等の実施のほか、生活習慣の改善や疾病の早期発見・早期治療につなげるための特定健診やがん検診の受診率向上を図っています。また、より多くの住民が健康づくりに参加できるよう、住民組織や事業者、関係部署と連携した取り組みを推進しています。



地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉の充実

地域共生社会の実現を目指し、社会福祉協議会等と連携し、住民同士のつながりや見守り活動、支えあいを強化し、多角的な視点から解決するような包括的な相談体制を整備しています。高齢者福祉については、住み慣れた地域で尊厳を保ち、自立した暮らしを続けられるようサービスの充実を図り、また健康状態と介護が必要な状態の中間段階にある「フレイル」への対策を積極的に行っています。障がい者福祉については、障がいの状況やニーズに応じた適切な保健、医療、福祉サービスや相談体制の提供を行っています。



結婚・出産・子育て支援の充実

結婚、出産、子育てを望む人がその希望をかなえられるよう、それぞれのステージに応じた支援体制を整備しています。結婚については、希望する人が理想とする結婚ができるよう、出会いの場の提供やそのサポートを行っています。妊婦や乳幼児に対しては、健康診査等を実施し、子どもの健やかな発育・発達を支援するとともに、総合的な相談や支援を行う包括的な支援体制を構築しています。子育てにおいては、多様なニーズに応じた子育て支援や必要なサービスが利用できる充実した子育て環境を提供し、子育て世帯の負担を軽減することを目指しています。



“ココ”がすごいこのえ！

健康指標

大分県健康寿命は男性が全国1位、女性が全国4位となっており、全国的にもトップクラスの水準となっています（2021年12月調査）。大分県は、男女とも健康寿命日本一を目指すために、「見える化」した13項目の健康指標を定めており、九重町は、その総合点が、女性は県内1位、男性は県内2位（2023年8月大分県発表）となっており、健康に過ごしやすい町となっています。

ミライへつなぐ、みんなでつむぐ。

kokonoe

07

教育・文化

地域に学び、ひとを育て、
未来が輝くまちづくり



幼児教育・ 学校教育の充実

人間形成の基盤となる幼児期における教育の充実を図りつつ、就学前教育から学校教育へ安心して移行できるようつながり学習等を行っています。学校教育においては、基礎的な力を育成するとともに、情報教育・環境教育・国際理解教育等社会の変化に対応した学習を行っています。また、学校が地域づくりの拠点の一つとなれるようにコミュニティスクールを推進しています。

社会教育の推進

住民が自ら生涯にわたり学習し、学んだ成果を地域で活かすことのできる環境づくりを推進するとともに、産学官連携により学びの場を提供しています。また、地域課題の解決のために、住民が自ら主体的に関わる機会を創出し、自主的な地域づくりを支援するとともに、その活動の担い手の育成に取り組んでいます。



文化・スポーツの推進

住民が、文化活動に関心を持ち、より地域に愛着を持てるように、日頃から芸術や伝統に触れ、自ら学ぶことができる環境づくりを行っています。また、誰でも気軽に参加できる生涯スポーツを推進するとともに、運動の習慣化への支援や子どもから高齢者までそれぞれの体力、年齢、目的に応じたスポーツ活動が進められるよう、住民の健康と体力づくりをめざしています。

“ココ”がすごいこのえ！

このえ学園

「このえ学園」では、2こども園・6小学校・1中学校が0歳から15歳までの保育・教育に一貫して取り組んでいます。6校の小学校の6年生がこのえ緑陽中学校に集まって行う「集合学習」、小1プロブレム解消のためのこども園と小学校で行う「つながり学習」などを行っています。さらに総合的な学習の時間では、九重町を愛する子どもを育成するために九重町の地域や特色について学ぶ「このえ学」をそれぞれの学校で系統的に学習しています。





車の場合（高速道路）

大分IC	→	九重IC	…約50分
別府IC	→	九重IC	…約40分
福岡IC	→	九重IC	…約1時間20分
大分空港	→	九重IC	…約1時間

高速バスの場合

博多	→	九重IC	…約1時間40分
基山PA	→	九重IC	…約1時間10分

JRの場合

大分駅	→	豊後中村駅	…約1時間
博多駅	→	豊後中村駅	…約2時間



九重町

kokonoe town



九重町のシンボル



町の木「くぬぎ」

町の基幹作物「しいたけ」の生産活動に欠くことのできないものであり、古くからの親しみをもたれています。



町の鳥「カッコウ」

緑の中で聞くカッコウの鳴き声は牧歌的であり文学的にも親しまれる、九重の草原に最も適した鳥です。



町の花「ミヤマキリシマ」

くじゅう連山の自生地は日本随一とも言われ、天然記念物にも指定されます。

九重町公式SNS

九重町では、行政のお知らせやイベント情報などをより手軽に、また緊急時には迅速にお届けするための手段としてソーシャルメディアを活用した情報発信に取り組みます。

現在活用しているソーシャルメディアは、Facebook、X（旧Twitter）、Instagram、LINEの4つです。



Facebook



X (旧Twitter)



Instagram



LINE



発行 大分県九重町
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8-1
TEL : 0973-76-2111 FAX : 0973-76-2247
URL : <https://www.town.kokonoe.oita.jp/>

企画・編集 九重町役場 情報デジタル推進課
株式会社 佐伯コミュニケーションズ

印刷 株式会社 佐伯コミュニケーションズ